

災害復旧予算を可決

7月14日の豪雨災害では、町は一般会計補正予算を二度にわたって専決処分し、緊急対応している。町が把握した災害の内容について、7月30日の議会全員協議会では、公共土木と農林災害合わせて222件・約5億7千万円と報告を受けた。（土石流は県対応のため除く）この復旧費約3億4千万円（国県の補助金など受けられる）を含む補正予算第5号と被災者への支援金、約600万円などの補正予算第6号を可決した。

災害復旧に 本格着手

今回の豪雨災害は、調査が進むにつれて被害の大きさが明らかにになり、激甚災害法が適用されることとなった。これにより財政支援は受けやすくなった。しかし、全ての被災地が対象となるわけではない。一ヶ所当たりの災害程度に基準が設けられている。支援を受ける

災害として5億6千600万円余りを充てる。一方で該当しない町

道は出来る限り道路維持費で対応するとして5千400万円余り増額することとした。なお対応できないものは協働ですとし、地域づくり活性化補助金を100万円増額した。農林関連では、農林振興対策補助金5百30万円を増額して対応する。これとは別に裏



片側通行のフルーツロード

山崩壊復旧に7千100万円を充てるとしている。

被災した家屋への支援は補助金や貸付金500万円余りを予算化した。

これらの予算は10月以降、順次復旧工事として着手される。

その他の 主な予算

秋の深まりとともに新型インフルエンザの流行が心配される。年齢や所得の状況で差異はあるが、予防接種費用の助成1千700万円弱を予算化した。小学校の整備予算4千800万円を増額し来春の統合に備える。

議長 奥田 正和 副議長 福田 豪 を選出

8月9日に開いた全員協議会で、小川信晃議長から「健康上の理由」で議長辞職の申出があった。これを受け8月26日、第3回臨時会を開き、選挙の結果、議長に奥田正和、副議長に福田 豪を選出した。

これに伴い産業建設常任委員会委員長に仙光保喜、副委員長に松本秀治、総務文教常任委員会副委員長に岡田武士、広報公聴調査特別委員会委員に仙光保喜と、議会構成を一部変更した。

無駄な努力はない 行動と興動を積極的に



議長 奥田 正和

活発な議論はもとより、個の意見にとどまらず、暮らしが良くなる提案をまとめることが必要。期待に応えられる、前向きな議会でありたい。



副議長 福田 豪

対話で紡ぐ信頼の絆 そして人と自然が輝く町へ

議長を補佐する黒子であること。一方で議員一人ひとりの発言の機会を保ち、ブレのない政策判断を。